

各位

ジブラルタ生命保険株式会社

女子高校生と女性社員とのペアで実施 体験型実技演習プログラム「Job Shadow」（ジョブシャドウ）

ジブラルタ生命保険株式会社（代表取締役社長兼CEO 山内一洋、東京都千代田区、以下 ジブラルタ生命）は、7月26日、未来を担う子どもたちを応援する社会貢献活動の一環として、公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本（代表 佐川秀雄執行役理事、東京都品川区、以下 ジュニア・アチーブメント）の提供する体験型実技演習プログラム「Job Shadow」（ジョブシャドウ）に協賛し、同プログラムを本社オフィスにて実施しました。

「Job Shadow」は、高校生が社員とペアになり「影（シャドウ）」として行動を共にする体験型実技演習プログラムです。「仕事内容の理解」ではなく、「仕事をしている人を見ることで、仕事の厳しさや考え方、責任感を肌身で体験する」ことを目的に実施され、参加する高校生の進路・職業の選択に役立つ機会を提供します。

好評だった昨年と同様に次世代女性のキャリア意識の形成を支援することを目的としています。今年は、女子高校生が管理職を含む女性社員の仕事ぶりをシャドウすることとし、本社オフィスが入居する品川シーズンテラス（東京都港区）に、福島県立磐城桜ヶ丘高校の女子高校生20名が訪れ、12部門の女性社員20名とペアを組み、ミーティングや通常業務などに約2時間同行しました。その後実施された女性社員と女子高校生との意見交換会では、女子高校生から多くの質問が投げかけられ、活発な意見交換が行われました。

女子高校生の感想

- ◇ パソコンを打つスピードやメールでのやりとりがとても速く、刺激を受けました。学校でエクセルを習っているのですが、難しそうなエクセル表を使いこなしている姿を目の当たりにして私もがんばろうと思いました。
- ◇ ミーティングで、性別や年齢、上下関係の区別なく真剣に意見交換している姿を見て、社会で働く上での責任感のようなものを感じました。
- ◇ システム関係の仕事は、コツコツと積み重ねていく細かい仕事が多いと感じました。こういった大変な仕事をしている方がいらっしゃるからこそ、大きな企業が成り立っているんだと思いました。

女性社員の感想

- ◇ 「女子高校生の職業観や勤労意識の形成の支援」という本来の目的だけでなく、受け入れる側の私たち社員にとっても日常業務の振り返りや新しい気づきを与えてもらえる点が非常に良いと感じました。
- ◇ 参加した女子高校生が、将来、就職活動などの際に今回の体験を思い出してくれたら非常に嬉しいです。
- ◇ 女子高校生から「働き続けているのはなぜですか？」「やりがいは何ですか？」「行き詰った時にやる気を出すには？」などの率直な質問を受け、自分にとっての仕事の意味を深く考えるきっかけとなりました。

ジブラルタ生命は、今後も子どもたちへの様々な学びの機会の提供を通じて、“未来を担う子どもたち”を応援してまいります。

【参考】ジュニア・アチーブメントについて

1919年米国で発足した世界最大の経済教育団体で、民間の非営利活動を展開。1995年に日本本部を設立、教材を導入する学校は全国に拡大しています。社会情勢がいかように変化しようとも、子どもたちが「社会のしくみや経済の働き」を正しく理解し、自分の確たる意志で進路選択・将来設計が行えるよう、基本的資質（主体的に社会で自立できる力）を育むための支援を提供しています。詳しくは、ウェブサイト <http://www.ja-japan.org/index.html> をご参照ください。



(写真左) 女性社員のデスクで仕事の様子を観察する女子高校生

(写真右) 女性社員とのディスカッションで、真剣に話を聴く女子高校生



(写真) 「Job Shadow」実施後の記念撮影